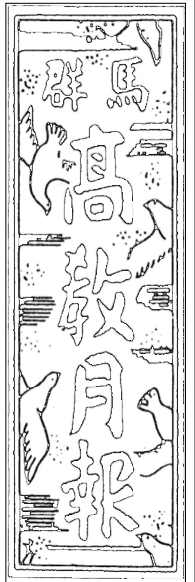


2022年度第2回中央委員会

非常勤講師の待遇改善や観点別評価で議論噴出



前橋市大手町
3-1-10
群馬高教組
027-231-2784
gktu@educas.jp
http://www.gktu.org/



3月11日(土)、第2回中央委員会が教育会館中会議室で開催されました。8名の中央委員にオブザーバーを交えた参加者から、臨時教職員の待遇改善や観点別評価などで発言が相次ぎ、すべての議案が承認されて会議は終了しました。議長(田口さん(清陵))・八重樫さん(渋工)、議運の神保さん(玉村)、書記の内川さん(高経附)には円滑な審議にご協力いただき、大変ありがとうございました。
新年度へ向けて、みんなで結束して頑張りましょう。

第1号議案

「第1回中央委員会以降の活動の経過報告承認に関する件」として、「生活上のとりくみ」(県職連交渉の妥結内容、県教委交渉の妥結内容、二〇二二県人事委員会勧告、秋季要請行動、対県教委秋季要請、確定交渉の総括、高崎市教委交渉、二〇二三春闘など)、「民主教育確立のとりくみ」(ぐんま教育の集い二〇二三報告、ゆきとどいた教育をすすめる教育全国署名、入試一本

化など)、「平和・民主主義・共同闘争」(県労会議定期大会報告、税金無駄使いする政府に抗議、他からの指示を現場に丸投げする教育行政反対など)、「福対部・高校共済会のとりくみ」(現勢回復の報告、退職予定者説明会、ボウリング大会など)、「組織強化・拡大のとりくみ」(現状・目標報告、拡大に向けての具体的運動展開など)について報告がされ、拍手で承認されました。

雄谷委員長挨拶 (要旨)

フラクタル構造は、小さな構造と大きな構造が同じ形を持っているというもので、木の葉などの小さなものから、地形、宇宙の構造などの大きなものまで、様々なスケールにおいて見ることができます。「ブラジルの蝶の羽ばたきは、テキサスで竜巻を起すか?」という命題で知られるカオス理論は、歴史を見る上でも有効と考えられ、現在、NHKの「映像の世紀」で番組が制作されています。

私が言いたいのは、私たちを取り巻く状況は、ウクライナ侵攻から、日本の政治、日常生活で抱える些細な問題まで、大きさは違っても、本質的にそこに同じ構造が見えるということです。そして、それらはバタフライエフェクトのように様々な形で影響しあっているということです。

今日は、大きなことから小さなことまで、どんなことでも、みなさんが気になっていることを大いに語ってほしいと思います。そこには必ず何らかの意味があり、問題解決のヒントが隠されているはずですよ。

本日の議論が大いに盛り上がることを期待し、挨拶とします。

第2号議案

「二〇二二年度三分の二期会計・会計監査報告承認に関する件」として、「一般会計、負債金特別会計、補償金特別会計、書記退職引当金特別会計についての収支報告と会計監査報告が行われ、拍手で承認されました。」

第3号議案

「二〇二二年度本部役員仮承認に関する件」として、「二月に実施された信任投票結果報告及び仮承認の提案がなされ、拍手で仮承認さ

第4号議案

「二〇二二年度定期大会までの運動促進に関する件」として、「情勢の基本的な特徴」(安保三法案、ウクライナ情勢、管理統制されていく学校、観点別評価導入、賃金人権問題、LGBTQ問題など)が提起されました。

第5号議案

「二〇二二年度四月から五月期暫定予算(案)承認に関する件」について、基本的には例年と同じ方向で行きたいと提起されました。

第6号議案

「群馬高教組第一六二回定期大会開催に関する件」については、部活動や補習のある土曜日から日曜日に変更しての開催予定であること、定期大会の議題案が提起されました。



休憩後の討論では、ほぼ全員から発言がありました。主なものを紹介します。

非常勤講師問題

○坂田さん(清陵)

(清陵で弁護士が講座を開いた時の新聞記事を配布し)ここに「ブラックな職場」を選ばないための注意点として「労働条件をはっきり教えない」とあるが、非常勤職員の勤務条件書類は6月になってからようやく手元に来た。4月から勤務は行っているのにおかしいのではないか。原発事故の記憶が薄れているが、現実の問題として捉えないといけない。



○原田さん(安総)

非常勤講師の付随業務に関する報酬は申請しないと出ないというが、それだと支給漏れが起こる。自動的に支給とはならないのか。

○八重樫さん(渋工)

定時制で12時間以上勤務している養護教諭の取り扱いはどうなっているのか。

* 時間講師が対象のため、該当しません。



○東宮さん(渋高・青翠)

県教委は抑制的だと感じる。付随業務に関する報酬は、支給しない方向への指導があるのではないかと。授業の振替を申し出たら教頭か



ら不可と言われた。学校の都合は通るが自分の都合は通らない。

○田口さん(清陵)

非常勤の人数が多く繋がりが少ない、お互いわかっていないところがある。アンケートで意見を出してもらい良かったこともあった。情報の共有や収集のためには非常勤職員部も必要では

観点別評価

○東宮さん(渋高・青翠)

非常勤の私しか担当していない科目の評価基準を含むシラパスの作成に関して、評価基準についての情報が

ないし、作成に要した時間に対しての費用対価もない。

○坂田さん(清陵)

非常勤職員に対しての勉強会もない。情報が入らない。(教科書会社のホームページが参考になるとの意見が出ました)

○八重樫さん(渋工)

やる気の部分については毎時間生徒にふりかえりシートを提出させていたがチェックが負担となり1学期でやめた。月に1回の提出物にしている。三観点を全員が見るのは無理なので一つに絞ることにした科目もある。

○矢嶋さん(大泉)

農業は教科書会社のコピーが効かないのでシラパスや年計を自らつくらざるを得ない。やる気を出欠席で見るとレポートを出さなくてAがつくものもおかしい。教頭がABCの評価と得点があっているかチェックし、指摘している。

他に「新規の仕事を導入するならば他の仕事を整理するなどしなければ働き方改革に逆行している」という意見も出されました。

その他の発言

○「ハラスメント」に関して、校内で申し入れをして、も真剣に聞いてもらえない、県の担当へ伝わっているのか。これに対しては澁谷委員長が「組合からは申し入れをしている。今後もし行く。」と返答しました。

○組合の今後については、「組合だけでなく校内の引き継ぎも心配で、司書の四割は地公臨なので優しくフォローしてほしい」といった声、「組合の成果を宣伝し

たらどうか、辞令交付式当日の宣伝活動をしてはどうか、若い人を多く呼び込む方策を考えていこう」「アンチ組合もないがバリバリ組合もないのは悪い雰囲気ではない」といった発言が続きました。

最後に、4号議案から6号議案についての採決を行い、全て満場一致で承認されました。その後、年間の学校別署名数の多い分会(安総・清陵・伊工・渋工)に本部より表彰がありました。

水田新執行委員長挨拶



執行委員長になりました水田です。最近の若い人はコスバ(コストパフォーマンス)で物事を捉える傾向が強い、といった話をよく耳にします。別に若者に限らずとも、自分に得があるかどうか、それをやることのメリッドは? など普通に損得勘定することはよくあります。それでは 組合に入ることのメリッドは何でしょうか? このことについて私はそもそも問いかけ自体が違うのではないかと思います。コスバ感覚は、実は利益を最大化しようとする経営者的な見方を知らないうちに我々も内面化しているように思います。では、ボランティア活動や生徒会活動などの価値はコスバ感覚の価値観で測れるのでしょうか。学ぶことや 他者の権利を守ることはどうでしょう。民主主義を大切にすることや 立場の弱い人に手を差し伸べることはどうでしょう。そして 組合活動は? (組合活動は先にあげた例を含んでいますね。)主体的に自ら行うこと、それは損得勘定でメリッド云々を問うものではなく、それ自身の価値があるはず。さて、高教組はいま将来存続できるかどうかの分岐点にある、と認識しています。組織拡大(といつか維持)は喫緊の問題です。もう一度、組合の意義をお互い問いかけつつ声をかけていきましょう。これはおかしい、違うんじゃないかという感覚を大切にしていきたいと思います。一人の十歩より、十人が一歩ずつ、という気持ちで勇気を少しだけ出して声を出していましょ。また、普段の組合活動にも積極的に関わっていただけるとありがたいです。対外的な要請行動、交渉はもちろん定期大会、中央委員会、教育のつとめなどの行事、全国での学習会、集会などなど。これらも関わってみて実感できること、得られることがわかります。みんなでも組合活動を創っていきましょう。挨拶というより呼びかけのようになりました。執行委員長としては力不足を自覚していますので、みなさんの力を是非お貸し下さい。よろしく申し上げます。